

平成三十年 度 山梨県立笛吹高等学校 第七期生 卒業式 式辞

「冬は厳しアルプスの 白く雄々しき姿」校歌の一節にも歌われる雄大な連山を照らす陽光にも、日ごとに春の訪れを感じ、今日の佳き日に、笛吹市長様、同窓会会長様、PTA会長様をはじめ、多数の御来賓並びに保護者の皆様の御臨席を賜り、このように平成三十年 度山梨県立笛吹高等学校卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより、本校教職員一同にとって誠に光栄であり、心から感謝申し上げます。

ただ今、本校所定の全課程を修了し、卒業証書を手にした、二百六十六名の皆さんに、心からお祝い申し上げます。卒業おめでとう。

保護者の皆様には、入学以来三年間、子供達の健やかな成長を願い、様々な御心配や御苦勞もあったことでしょう。今日の凜とした晴れ姿を見て、感慨もひとしおのことと存じます。お祝いを申し上げますと共に、喜びを分かち合いたいと存じます。

卒業生の皆さんは、三年前、「桃花の咲く道を 希望を胸に」、校訓である「責任と信頼」の精神を培うべく、日々、勉学に、クラブ活動にと精進する新たな道を歩み始めました。

皆さんとは入学以来三年間共に過ごすことができ、たくさんの思い出があります。

三年生として迎えた五月の高校総体。ソフトテニス部男子の七連覇をはじめ、サッカー部、バスケットボール部、バレーボール部、また今年度から総体に加わった野球部など、各クラブの活躍により好成績を収め、関東大会や全国大会へのはずみをつけることができました。また、翠礫太鼓部をはじめ、吹奏楽部、ボランティア部などの文化部も全国総文祭出場や、地域での活動に取り組み、本校の魅力を発信してくれました。

六月には、「星瞬 誰もが主役の舞台」のテーマのもと、新企画の「クラスCM」をはじめ、各クラス創意工夫ある発表がなされ、テーマのごとく一人一人が主役の笛吹祭となりました。

七月には、二度に渡る雷雨に耐えて、雨あがり後に全校生徒一丸となり大応援を繰り広げ、快勝した野球の試合は感動的なものとなりました。また終業式には、望月君の発案による本校OBの藤巻亮太さんのサプライズ来校など、忘れられない思い出となりました。

八月には十三年ぶりとなる農業クラブ関東大会が本県で開催され、大会会長の武藤さんを中心に準備と運営にあたり、成功裏を収め、次期開催県に引き継ぐことができました。

二学期には、笛吹市や地元JAの支援を受け、果樹園芸科の生徒達が栽培したシャインマスカットを台湾へ輸出し、台北市内のデパートでの販売実習や現地ブドウ園の見学など、全国に先駆けた取り組みにも果敢に挑戦し、大きな成果を上げました。

このように様々な場面で、三年生として常に先頭に立ち、その責任を果たし、後輩の手本となり活躍していました。これは、皆さん自身の努力は勿論ですが、家族をはじめ、多くの方々の支えがあったことを心にとめ、忘れないで欲しいと思います。

本日、皆さんは卒業となるわけですが、皆さんを待ち受ける社会に目を向けると、情報化やグローバル化が急速に進む一方で、国際情勢も、大国間の新たな対立などの課題が生まれようとしています。また、この地域社会においても、少子・高齢化による人口減少、これに伴う地域産業の担い手不足など、課題は山積しています。

このような時代に生き、逞しく未来を切り拓いていくためには、生涯に渡って主体的に学び続ける力と、一人一人の積極的な社会参画がより一層、重要となります。本校では、笛吹市との包括連携協定を締結し、地域と連携した取り組みをはじめました。これからも地域社会に目を向け、

様々な体験や社会との関わりを通して、正しい価値観や人間力を高め、社会の一員として、自分の能力を発揮しながら、自分自身の役割を果たし、地域になくてはならない存在となることを期待しています。

私たち職員は教育目標である、

「自己の可能性を信じ何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成」

「広い視野を持ち、地域社会の形成に進んで参画できる生徒の育成」のために尽力してきました。

多様な学科での「多彩な学び」、将来への「夢や希望」、クラブ活動で鍛えた「健全な心身や強い絆」、農場で生産された野菜や果物を、家族に届ける「優しい心」を持つ、皆さんにこそ、これからの地域の未来を切り拓くに足る資質があることを私は確信しています。

卒業生の皆さん、本校での三年間の学びと仲間に誇りを持ち、生涯学び続け、よりよい社会を築いていって下さい。

勿論、長い人生には、平坦な道ばかりで無く、上り坂もあれば下り坂もあり、困難な場面に直面することもあるでしょう。しかし、どんな困難な状況の中にも、必ず光は見いだせるはずです。諦めず、焦らずに、粘り強く、「試練の山やいざ越えん」の気概で前に進んで下さい。

折しも今年、三十年間続いた「平成」が幕を閉じ、新たな元号へと生まれ変わる大きな節目です。新たな時代は、まさに、皆さんが創り上げ、「活躍する時代」なのです。

未来に飛躍するには、「今」を大切にすることです。そして、時間は常に未来に向けて留まることなく進んでいくことを忘れないでください。

「過去は未来より遠し」です。

今日は一日たてば昨日になり、やがて一年前になり、十年、二十年と遠ざかっていきます。それに比べ、明日は今日になり、十年、二十年先も必ず今日となってやってきます。

聖路加国際病院名誉院長の故日野原重明先生は、「命は私たちに与えられた時間です。それを何の為に使うのか、もし助けを求めている者の為に有効に使うのなら、自分達の生き方は、これからの時代を生きる子供たちの手本になる」と述べています。

明日から始まる新しい生活においても、喜びと感謝の気持ちを持ち、与えられた「命」を最大限に生き、皆さんが、十年先、二十年先、その能力や経験を社会に還元してくれることを心より願っています。はつらつとした皆さんが、本校を巣立つのは、寂しい限りですが、新たな場所で、笛吹高校で培った叡智により、これからの社会を照らしてくれることは、嬉しい限りです。卒業生が一生懸命に頑張っている姿を見るのは、教員として、嬉しい瞬間の一つであり、励みになります。またいつか、どこかで、皆さんの挑戦している姿が見られることを、楽しみにしています。

結びに当たり、保護者の皆様には、入学以来三年間、本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。

明るく元気で心優しい、前途有望な皆さんとともに、この笛吹高校で過ごせたことに感謝しつつ、改めて、二百六十六名の卒業生の皆さんの洋々たる前途が、健やかで幸多きことを心から祈念し式辞と致します。

平成三十一年三月一日

山梨県立笛吹高等学校

校長 若林喜久男